

目次

第1章

まえがき 2

発達障害は障害か、才能か 11

どう才能を生かすのかという方法を誰も言わない

トレーニングして障害を克服しろ？

『診断名』に踊らされる人たち

20 16 12

第2章

『自分はもしかしたらオカシイんだろうか？』

25

本質突き詰め症候群

社会に染まりつつある頃

多数派がスタンダードにすり替わる

26
31
35

第3章

発達障害はサイコパスでもコミュ障でもない！

41

発達障害のある人に押される烙印

「サイコパス」

「コミュ障」

42
46
50

第4章

「発達障害という括りにも意味はない」

55

発達障害という括りに意味はなし

伸びしろを奪うリスク

発達障害特性の『変動』について

64 60 56

第5章

真の才能といえる「感じ方」の力

69

感じ方こそが才能である

効率主義から自己実現の時代へ

感じ方から問題提起へ

80 75 70

第6章

社会に貢献し、存在価値を高め続けていくために。

85

自分を知る

家族問題をクリアする

仕事とマネタイズを知る

コラム「注意欠陥と多動性がなぜ一緒に扱われているのか？」

101 95 90 87

あとがき

108